

日本YWCAの使命(ミッション)

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題

平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもる
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 11

NOV. 2009

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03・5367・1872 / FAX 03・5367・1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

パレスチナ Witness Visit 世界16カ国より40人参加

JAI主催、世界YWCA協力で、9月22日〜10月2日に実施された「パレスチナ Witness Visit」に研修として参加した根岸朋子(日本YWCA職員)の報告です。

人が見える関係をつくる



家を奪われた少女。地元NGO・国連事務所も、一時的な支援しかできない状況。©日本YWCA

初めてのパレスチナ訪問での収穫の一つは、メディアによる固定観念が粉々に打ち砕かれたことです。「紛争地帯だから物資もなくて貧しい」という思い込みは「私たちは貧困ではない。占領から解放されれば自律して何でもできる」というメッセージによって変えられ、「イスラム教徒の女性は保守的で消極

的」という疑念は「うちの子かわいいでしょ」とカメラの前でポーズする正装のママ友たちによってかき消され、「男性たちは戦闘モードなのは」という不安は「おつ、今日も来たね!」というホテル近くの雑貨屋店主の毎度の挨拶で溶かされました。苦しい現状を大粒の涙を流して語っては大きな声で笑い飛ばしてしまふ、パレスチナの人々の強く・暖かく・深い力によってすべてが変えられました。パレスチナの人々が示す、大きな腕で他者を包みこむような度量は、今まで経験したことのないものでした。

今回はガザの訪問は不可能でしたが、メイン会場のYWCAとYMCAがある東エルサレムにおけるイスラエルの入植地拡大など、ニュースでは大きく扱われないパレスチナ人の居住権剥奪の実態から、占領の問題の

深刻さを目の当たりにしました。パレスチナYWCAに迫る勢いの入植地拡大に危機感と不安を覚えます。武力による弾圧・経済活動の制限・住居の強奪・移動の制限・信仰生活の妨害などありとあらゆる方法でパレスチナの人々は生きる権利を奪われています。

「家から強制退去させられたのは今回で2回目。あの家は国連から与えられたものなのに。私も弟も路上で宿題をやるの。男性は野宿、女性は一時的にホテルを無料で貸してもらって夜をしのいでいる。路上でこう語るの(2面に続く)

**第30回全国総会が
開催されます**
11月21日(土)〜23日(月)
(3面に連続記事)

いま、地球市民として 生きるために

世界YMCA/YWCA 合同祈禱週
2009年11月8日〜14日

YMCA/YWCA 合同祈禱週は、世界中のYMCA/YWCAに連なる人々が、一つのテーマの下に祈り行動する機会として、毎年11月第3週に守られます。

両会長からのメッセージ

親愛なる姉妹・兄弟の皆様へ

今年の合同祈禱週のテーマは「いま、地球市民として生きるために」です。地球市民というテーマに光を当てることで、私たちがコミュニティで抱える問題が地球規模の課題でもあること、そしてコミュニティレベルでそれらの問題に取り組む一方で、世界の連帯が必要であると見抜く重要性を強調したいと思います。

冊子の「考えてみましょう」の箇所では、移住・ジェンダー・経済の公正・気候変動の実情が記されており、地球市民の視座に立った洞察を与えてくれます。さらにこの箇所は、他の人々と手をつなぎ世界とつながるべく、私たちが快適な場所から外へと踏み出させ、私たちが「もはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族」とならせてくれます。

キリスト者である私たちは、神の顕現、すなわち、神がキリストにおいて肉体となれることを通して闇と無知とから解放されます。私たちが目を開き世の中を見渡せば、神の顕現の神秘は日々私たちとともにあることに気付くのです。こうして目を開くと、非正規あるいは不法移民の中に、文化の違いにより差別される女性の中に、環境難民の中に、また、栄養失調の子どもの中に私たちは神の御姿を見ることでしょう。そして、このことはコミュニティや社会の中の寄留者に対する私たちの判断や理解に新たなチャレンジをもたらします。

最も弱く、自尊心を傷つけられ、尊厳を奪われた姿となって現れた神は、「誰もあえて名前を呼ばない者に話をし、誰も与えることができないものを与える」よう私たちの背中を押します。そして何よりも、私たちの解放は神の解放と密接に関わっており、運命は相互に結びつくものだという目に向けるよう私たちに導きます。

さて、地球市民とは中産階級の特権か、もしくは物事を選択する時間的余裕のある人たちが独占するものなのか、あるいは多少の快適さを犠牲にする以外、失うものは何もない人たちに与えられたものなのでしょうか。

信仰は、キリスト者として私たちに、地球市民である以上に次のことを教えてくれます。「キリストにあって姉妹・兄弟なのです。地球市民が特別な立場の人たちに限定されるとき、それは他のほとんどの地球の人々の権利を剥奪します。キリストは遠く離れている人々がキリストの近くに來られるよう働かれます。地球市民について議論される権力の中心においてではなく、ほんの一握りの人しか一杯の清潔な水を手に入れられないような社会の周縁において」。

世界YMCA同盟会長
マーティン・マイスナー

世界YWCA会長
スーザン・ブレナン
(翻訳：根岸朋子)

子どもの権利が保障 される社会をめざして YWCAからの学び

栄留里美

私は熊本YWCAの若者グループPDYに所属し、2003年には2代目代表を務めた。PDYとは、主に若者自身が若者対象に、ジェンダー・性教育や、その根幹にある人と人とのつながりについてワークショップを行う活動である。この活動を通して、「性」について深く話せるかけがえない仲間ができた。そして、韓国YWCAの国際交流キャンプや名古屋YWCAでの合宿などの多くの研修で多様な人権問題の知識を学んだ。同時に、人権問題の解決のために懸命に努力する人たちの存在を知ることができた。

活動を通して、子どもや若者について関心を持った私は大学卒業後、不登校の子どものフリースペースのスタッフをし、その後は子ども虐待の現場で仕事をした。親から体罰や叱責を受け続ける子、家に食糧がなく給食だけを食べて生きていく子、妹や弟の世話をするために学校に行けない子、家にも学校にも居場所がなく街を徘徊し犯罪に巻き込まれる子、救われるはずの養護施設で虐待を受ける子：様々な苦境を強いられている子どもたちがたくさんいることに驚かされた。日本にはないと言えがちな貧困や暴力が蔓延している。しかしながら、この状況を十分に改善できるような体制が日本にはないことに悔しい思いをしてきた。

私は今年9月からイギリスの児童虐待対応を学ぶため、1年間の予定でイギリスに滞在している。日本の児童虐待対応はイギリスの30年前の状況だといわれる。イギリスでは虐待死事件が起こるとソーシャルワーカーと警察は大きな非難を市民から浴び、児童福祉制度を大きく変革し、制度を充実させてきた。日本のように親、特に母親が非難されるだけで社会が変わらないとは異なる。子どもの権利は社会が保障すべきという意識がある国だと思ふ。私はこうしたイギリスの虐待対応を研究し、今年共著で本を出版した(子どもソーシャルワークとアドボカシー実践 明石書店)。今後イギリスでの実際的な対応の詳細を研究し、また日本に伝えていきたいと意気込んでいます。YWCAから学んだ人権意識や活動への原動力を胸に、子どもの権利が保障される社会に日本もなっていけるよう頑張っていきたい。

(熊本YWCA会員)



16の国々・地域から、10~70代の男女が参加：©日本YWCA



難民キャンプの子どもたち。日本からの募金はキャンプ内の幼稚園に送られます。©日本YWCA

1票が起こした「革命」 鳩山内閣への政権交代

村野 坦

総選挙の劇的な勝利から誕生した鳩山政権は矢継ぎ早に政策転換を打ち出している。国際社会へのデビューも果たした。新しい政治が動き出している。

選挙は民主党の勝利には違いないが、むしろ自民党が負けた要素が大きい。その敗北は早くから予想されていた。麻生退陣後の自民党総裁選に出馬を断念した小野寺五典氏は宮城県の6つの選挙区で唯一人生き残り選挙後、こう述べた。「東北の農村で3世代同居が減り高齢の夫婦だけの世帯が増えた。地方経済が疲弊する中で年金の持つ重みが変わっている。今日より明日の暮らしが悪くなりそうだ、と人々が思うとき政治の

変革が起こる」。「税こそ政治」と言われる。歴史を顧みても、英国議会の誕生も米国の独立戦争もフランス革命も、つまるところ君主や宗主国の厳しい税の取り立てや乱費に起因する。豊かさが感じられない生活や社会の不条理は、政治家のトライアングルに注ぎ込まれる金の無駄遣い、非効率による納税者は気づいたに違いない。

鳩山首相は国連演説で「政権交代は日本の民主主義の勝利だ」と意義づけた。1989年公布の明治憲法から始まった議会制度の下で45回目の総選挙だが、女性も加わる国民総参加の選挙で初めて実現した本格的な政権交代だ。米大統領リンカーンが「投票 (ballot) は銃弾 (bullet) より強し」の言葉を遺している。この選挙は国民有権者の1票が起こした「革命」と私は見ている。「脱官僚依存の政治」の新政権が繰り出す手法や施策に、その思いを深くする。

鳩山首相を指名した国会へ行ってみたい。記者時代、政治を追った「古戦場」では各党の獲得議席に合わせる部屋の入れ替わりが繰り返された。記者時代、政治を追った「古戦場」では各党の獲得議席に合わせる部屋の入れ替わりが繰り返された。

（一面から続く）
「地元の国連事務所にもNGOにも、あらゆるところに訴えたわ。こうして路上でできる限りのアピールをしたって、誰も足を止めてくれない」。一家は小さなホワイトボードに状況を記し、街路樹の下で昼夜抗議しています。私たちのような外国の個人訪問者に何が出来るだろう

緊急：国際協力募金

フィリピン・サモア・アメリカンサモア・トンガ・インドネシア
台風・地震・津波による被災者救援

- ◆フィリピンは9月下旬の台風16号・17号による洪水や土砂崩れなどにより死者246人（9・30時点）、60万人近くが避難生活を強いられています。フィリピンYWCAから被害状況と初期救援活動報告、および被災者救援に対する緊急支援要請が届きました。
- ◆サモア、アメリカンサモア、トンガは9月30日のマグニチュード8.3の地震とそれによる津波の発生により、死者は200人を上回り、「村ごと消滅した」という声も報道され、被害の全貌が見えない状況です。
- ◆インドネシアではスマトラ島沖で9月30日にM7.6、10月1日M6.8の地震が発生し、死者は数千を超えるかもしれないと報道されており、こちらも被害全貌が見えない状況です。

日本YWCAは被害国YWCAと世界YWCAと連絡をとりながら、以上の被災者救援募金を開始することにいたしました。ご協力をよろしくお願いいたします。

- 被災者救援に対する各国YWCAの取り組み
- 第1段階 災害直後の被災者救済。被災者には一次避難のできる場所、下着・衣料品、水と食糧を提供。
YWCA事務所や建物のあるYWCAは、行き場を失った女性や少女に避難場所として提供。
- 第2段階 一次帰宅可能な被災者へ支援（泥・がれき・汚水などを除去する道具、鍋やコンロなどの調理器具、下着・衣料品、寝具、カウンセリングを含む医療体制、家屋の修理に必要な材料を購入するための資金援助）
- 第3段階 YWCAが活動拠点としている地域コミュニティの再建。特に子どもと学校の支援（教科書・制服・机や椅子、教室の準備）
- 緊急募金期間：2009年10月8日（木）～11月30日（火）
- 募金振込先：郵便振替 00170-7-23723 「(財)日本YWCA」
*振込用紙の通信欄に、国際協力募金「アジア・太平洋地域被災者救援」とお書きください。
- 問い合わせ先：日本YWCA 〒160-0008 東京都新宿区三栄町6-12-2F
Tel: 03-5367-1872 Fax: 03-5367-1873
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
http://www.ywca.or.jp

放射能を出さない エネルギーへ



原子力政策の転換を求めて、10月3日に開催された「10・3 NO NUKES FESTA 2009」に、東京YWCAが実行委員会に加わり参加しました。全国から多くの人が集まり、会場の明治公園には多彩なテントが張られ、70近い展示ブースが並びました。東京YWCAの展示ブースでは、全国のYWCAの活動をファイルにして、来場者に見てもらいました。

断続的に降り続いた雨も午後には上がり、休日の都心を7000人の参加者とパレードし、新政権に核政策（原子力政策）の転換をアピールしました。

*同イベントのHP <http://www.nonukesfesta2009.com/>

える有効なネットワークとして活用できそうです。
注*インターネットを使った交流の場
Witness Visitの声明文は10月末日に世界YWCAより発行予定です。お問い合わせは、日本YWCAまで。

第30回全国総会お知らせ Women Creating a Safe World 女性が創り出す平和な世界

一人ひとりが立案者であり、実行者！

11月21日から、いよいよ第30回全国総会が開かれます。この3年間で見えてきた課題・成果をさらに発展させ、実りある30総会期を進めるための、大切な総会です。

第一の議案は、公益法人新法への対応として、日本YWCAが一般財団法人申請の方向性も視野に、日本YWCAのあり方をじっくり考えて方向性を定めたいと思います。

第二の議案として、戦後の日本YWCAの平和の取り組みのさらなる展開をアジア・太平洋地域の人々と連携して進めていくためにも、「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」案を1日目の議事で決議いたします。文案については地域YWCAとの積極的なやりとりの中から生まれた原案であり、粛々と決議をとる予定です。その証人として韓国YWCAから会長・青年委員会担当常任委員・ユースの3名をゲストとして招待しています。また世

界YWCA会長・副会長・総幹事からのビデオメッセージも紹介します。

1日目の夜はアジアをテーマに交流のひと時を持ちたいと、現在ユースを中心にプログラムを準備しています。

2日目、日曜礼拝の後、次の30総会期の方向性を考えることになります。まず、韓国YWCA会長から決意表明に対する応答メッセージを頂きます。次に日本YWCAの課題と展望についての発題があります。

午後分科会に分かれて、第30総会期の具体的な活動計画を検討します。私たちが抱えている、会員の減少・高齢化、プログラムの行き詰まり、などの課題を克服しながら、YWCAの目指す「核」のない、暴力のない世界実現のため、小さくても豊かな実を結ぶことができるような運動展開を計画したいと考えます。

そのために、下記のプログラムにあるとおり、イシューの活性化のための分科会5つと、組織の活性化のための分科会2つ、合計7つの分科会を用意しまし

た。夜は、8時には全体会終了の予定です。

3日目の議事Ⅱでは、事業計画、2010年単年度予算の概要、公益法人新法への対応、前日の分科会から出された提案を議案にしていきます。

今回の総会は、どこかの誰かが決めるのではなく、参加する皆様が立案者であり、実行者です。世界YWCAに連なる全国のYWCAの力をあわせ、3年後には、新たな会員・新たな提案を更に押し出していくことができるような基盤づくりが、30総会期の歩みであつたらうれしいと考えます。

なお、21日午前中に臨時総会を開催し会則改正案を決議、またその後臨時中央委員会を開催して第30総会期加盟費(分担金・算出基準案)を決議します。時代の節目にあつて、その時を大切にたらしめ、皆様の健康がまもられながらの総会であるように祈っております。

第30回全国総会準備委員長 俣野尚子

日程：2009年11月21日(土)～23日(月・休)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

11月21日(土)		11月22日(日)		11月23日(月・休)	
8:15	受付(登録)	9:00	日曜礼拝(増田琴牧師)	8:30	メディテーション(ハン・ミミ韓国YWCA常任委員 予定)
臨時全国総会		10:10	「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」への応答メッセージ(カン・キョチャ韓国YWCA会長 予定)	9:00	議事Ⅱ
日本YWCA会則改正案				1. 会長・副会長・中央委員選挙結果報告	
臨時中央委員会				2. ブロック別候補者選考委員選出報告	
10:30	分担金(加盟費)算出基準案	10:30	発題	3. 第30総会期主題案・日本YWCAビジョン案	
		①第30総会期の全国運動をより活発に展開するために		4. 第30総会期事業計画案	
		②イシューに関する発題		5. 第30総会期:2010年度収支予算概要	
		・非核による平和		6. 公益法人新法への対応の方向性	
		・平和・憲法		7. 協議から出された事項	
		・女性への暴力の克服		8. その他	
		・市民レベルで築く東北アジアの信頼関係			
第30回全国総会		12:00	会長・副会長・中央委員選挙(代議員のみ)	11:30	閉会
12:30	受付(登録)			12:00	解散
13:30	開会	昼食			
14:00	組織会議事Ⅰ	13:30	●イシューの活性化の分科会	13:30	
第29回全国総会記録確認報告		・非核による平和		第30総会期第1回運営委員会	
1. 基調報告		・平和・憲法		評議員会	
2. 活動報告		・女性への暴力の克服			
3. 収支決算書(2006・2007・2008)		・市民レベルで築く東北アジアの信頼関係			
4. 候補者選考委員会報告		・日韓ユース・カンファレンスの今後と韓国YWCAとの協働			
5. 公益法人新法への対応		●組織の活性化の分科会			
6. 「アジア・太平洋戦争の謝罪と未来に向けての決意表明文」(案)		・広報/ファンドレイジング			
7. その他		・新しい若い女性へのアプローチや会員研修を考える			
16:30	会長・副会長・中央委員候補者紹介	17:00	夕食		
17:00	ブロック別候補者選考委員選出(代議員のみ)				
18:00	交流会(含 夕食)	18:30	全体会		
テーマ:身近にアジア!(仮題)		20:00			
20:30					



「わたしが与える水はその人の内であらう、
永遠の命に至る水がわき出る」
(ヨハネによる福音書 4章18節)

井戸端でサマリヤの女性と主イエスは出会いました。水をめぐる対話をしている間にイエスは女性に夫を呼んでくると語り、彼女は5人の男性と結婚してきたけれども、今共に生活している人は夫ではないと告げます。家に子孫を残すために、自分も生きていくために結婚を繰り返す他なかつたのかもしれない。そうした痛みに触れて、イエスは「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています」と答える女性に、「わたしがそうなのだ」と語られました。枯れ枝のようにうつむき歩いてきた私に、主は語りかけて下さる。「わたしがそうなのだ」と。生きていくことの重さをその肩に負ってきた、痛みに触れられ、ありのままの姿で自らを受け止められた時、私たちの内にある水脈にのちの水が流れ始めます。そして、「神の恵みによって今日のわたしがいるのです」(I am what I am 「リントの信徒への手紙」15章10節)と賛美することが出来ます。それは何にも代え難い「よき知らせ」、福音です。

サマリヤの女性に傷におおわれ見えなかつた新たな自分を見出したのではないでしょう。彼女は、町に行つて同じように傷つき、癒しを必要としている人、打ちひしがれている人に、「よき知らせ」を知らせました。わき出る水は、その人自身のあり方を回復させ、力を引き出すのです。

増田琴 (日本キリスト教団集鳴とさわ教会牧師)

近隣YWCAの協働の実り

湘南・横浜・平塚YWCA

湘南・横浜・平塚YWCAは、長年共同プログラムを実施し、成果を上げてきた。

特に画期的なものは2002年の有罪法反対のアクションだろう。浦和・東京YWCAと一緒に、若者たちが中心になって、浦和から上野・横浜・藤沢・平塚まで電車で移動して、各地でそれぞれの反対の意思表示をした。

毎年行う「沖縄デー」も、今年は沖縄YWCAの大城美代子さんを迎えて中央委員会の前日に横浜Yで行った。大城さんの、米軍基地の実情と問題点の的確な指摘は、長く厳しい辺野古の闘いの中で研ぎ澄まされたものであろうと心を動かされた。このような女性たちが、YWCAの運動の中から育っていくことを誇りに思う。他の地域での反原発の運動などでも、こうした会員が多く活躍していることと思う。

すでに日本Yの機関紙でも紹介したが、2008年3月にドキュメンタリー映画「ひめゆり」を上映し、今年は8月1日に「NAKBA」の上映会を3市Yで開催した。どちらも200名を超える観客を得て大盛会だった。特に今回は会場である公的機関が前回の実績を評価して、共催してくれたことは、大きな収穫である。今回も収益の中からパレスチナYへの支援もできた。単独ではとてもできないことを3市Yが協力すれば、ここまで出来るのだという自信を得た。今回の収益を元に次回の計画も進行中である。

平塚YWCA 三股まさ子



「NAKBA」上映会にて



弘前 YWCA

創立10周年訪韓ツアー



訪韓の度に、明洞大聖堂の真下にある韓国YWCAの建物を横目にして、あの中で一体どんな活動が具体的にされているのかな、等と考えながら通り過ぎていた。20年も前からである。今回は、弘前YWCAが設立されて10周年目を迎えて、設立に先立つ1年前から行ってきたYWCAハンゲル講座の仲間5人と、ようやくあの建物を訪れることが出来た。

ここにこそスタッフ一同が温かい笑顔で迎えて下さり、共に祈り、短い語らいの時があったことは大きな喜びであった。総幹事室へ案内され、そこに並んだ歴代の会長の写真には見覚えのある方の顔が見られた。韓国YWCAは日帝時代の中で苦悩しつつ歩まれた。その心痛と日本への寛大な思いを思う時、私たちは世界に連なる同じYWCAとして「平和」実現のために歩み続ける思いを新たにさせられた。

日本で一番小さな弘前YWCAが何とか11年目を迎えて、これから歩むべき方向が示された思いがして、静かな深い感動に包まれて帰国の途についた。ソウルYWCAへも併せて案内していただいて訪問することが出来たことも重ねて感謝する旅であった。

弘前YWCA 松村枝美

人をつなぎ、生かし、エンパワーする YWCAの出前ワークショップ

●出前ワークショップ第2期終了

日本YWCAビジョン2015委員会では、女性のリーダーシップ養成の一環として、地域YWCAや日本YWCAで展開するワークショップ&ファシリテーターの派遣を実施しています。09年5月～9月にかけて、第2期として4つのYWCAにファシリテーターを派遣しました。

- *静岡YWCA：5月9日(土)「平和のスキルを身につける」(ファシリテーター 二木佐知子・京都YWCAほーぼのぼの会)＝写真
*神戸YWCA：6月6日(土)「女性のための『新しい』リーダーシップトレーニング」(ファシリテーター 増井さとみ・名古屋YWCAもーやっこさりり)



- *札幌YWCA：7月12日「核のない地球@9条一子どもたちに伝えるためのワークショップ」(ファシリテーター 藤原玲子・日本YWCAビジョン2015委員会)
*釧路YWCA：9月5日(土)「女性のためのこころとからだを自分でまもる セルフディフェンス講座」(ファシリテーター 具ゆり・ウイメンズカウンセリング名古屋YWCA)

ワークショップの前後には、ファシリテーターと参加者の集いをもち、交流を深め、さらに課題の共有を図ったケースが多くありました。YWCAのリソースを共有し、それぞれのYWCAが活性化することを目的に実施した「YWCAの出前ワークショップ」の企画に対して、参加者・受け入れYWCAおよびファシリテーターを送り出しYWCAから、評価と今後の期待が寄せられました。

●「核のない世界@9条」in中高YWCA夏のカンファレンス

8月4日、とわの森三愛高校を会場に、中高YWCA北海道・東北ブロックの夏のカンファレンスで、札幌YWCAの会員が中心となり「核のない世界@9条一子どもたちに伝えるためのワークショップ」を実施しました。事前のリハーサルに中高YWCAの生徒さんが参加してくれるなど、中高YWCAと札幌YWCAのよい協力関係の下、中高生と大人と一緒に核の問題を考える機会となりました。参加した生徒からは、「あの湾岸戦争のあとの悲劇も改めて知り、ショックでした。核なき世界の実現とよりよい世界の実現にもっと真剣に取り組んでいきたい」などの感想が寄せられました。



●「核のない世界@9条」inカトリック平和旬間のつどい

8月9日カトリック横浜教区正義と平和協議会主催の平和旬間のつどいで、神奈川県にある聖セシリア女子中高を会場に、「核のない世界@9条一子どもたちに伝えるためのワークショップ」を実施。このワークショップは昨年5月の9条世界会議で日本YWCAが実施したもので、その場に参加されていたカトリックの浜崎眞実神父より声をかけていただき、実施の運びとなりました。当日は、ビジョン2015委員会から横山由美子・藤原玲子の2委員がファシリテーターとなり、26人の参加がありました。

お年玉付年賀ハガキ YWCAオリジナル9条年賀状 予約受付中!

日本YWCAビジョン2015委員会では、9条キャンペーンの一環として、2010年版年賀状を作成しました。今年も皆さんのリクエストにお応えして、お年玉付年賀ハガキに印刷しています。

- 各1枚100円+送料 一度に合計300枚以上ご注文の場合 1枚96円+送料
●締切：10月31日(土)
●デザインは、日本YWCAホームページでご覧いただけます。各YWCAにもお知らせしています。
●ご希望のデザインと枚数・送付先・〒番号・住所・宛名を明記してFAXまたはE-mailでお申し込みください。

【注文先】 日本YWCAビジョン2015委員会 FAX：03-5367-1873 E-mail：office-japan@ywca.or.jp



今年のデザインは「萌黄(もえぎ)」と「さくら」の2種類です。

- 「協力ありがとうございました」 賛助費(以下敬称略)
戸田照枝 向後理恵 ギツシユ陽子
兼清和子 金剛静慧 小園井恭仁子
玉生邦子 松山恭子 森原真知子
志賀洋子 大工原則子 石崎喜美子
皆川悦子 堀江孝子 西田和子
鈴木みき 江崎啓子
中橋美鈴
世界YWCA賛助費
石川松子
平和教育資金
金剛静慧 横山由美子
カトリック横浜教区
オリーブの木 泉金
依田康子 角田 健 東口千津子
池田一雄 佐伯照美 森 恵津子
皆川悦子
バレスチナYWCA支援募金
横浜YWCA 平塚YWCA
湘南YWCA 静岡YWCA
一般寄付
遠藤真理 鶴崎祥子 唐崎旬代
ECPAT/ストップ子ども買春の会
ひろしまを考える旅委員会
(2009年9月20日現在)